

## 特集 太平洋セメントグループの「ありたい姿・目指す方向性」の実現に向けた成長投資とアクション



### 株式会社デイ・シイを完全子会社化

2016年8月、持分法適用関連会社の株式会社デイ・シイを株式交換により、完全子会社化しました。

同社は、首都圏を中心にセメント事業、資源事業、環境事業、不動産事業等を展開しており、神奈川県川崎市に臨海工場を持つ強みを活かし首都圏のインフラ整備等への建設資材供給に重要な役割を果たすと同時に、当社同様、資源循環型社会の形成に向け、廃

棄物・副産物の再資源化にも取り組んでいます。

今後は、太平洋セメントグループとしての一体経営により経営資源の最適化を推進させることにより首都圏における更なる事業基盤の強化を実現するとともに、高品質な製品やソリューションの提供を通じて安全・安心な社会づくりにも積極的に貢献していきます。

### 岩手県大船渡市で環境に配慮したバイオマス発電事業に参入

2016年8月、新電力のイーレックス株式会社との共同出資により、大船渡発電株式会社(岩手県大船渡市)を設立し、木質バイオマスによる電力卸事業に参入します。本事業は、新会社が当社の大船渡工場内に発電出力75MW(国内最大規模、循環流動層ボイラ採用)の発電設備を建設し、「再生可能エネルギー固定価格買取制度」を利用して電力卸事業を行うものです。発電所は2019年末に完成し、以降20年にわたり発電・売電する計画です。

バイオマス燃料として、主にパーム椰子殻(PKS)を使用しますが、燃料の多様化に対応するためパーム空果房(EFB)も使用します。EFBは、これまではパームオイル搾油工程で廃棄されていましたが、当社は、サラヤ株式会社(大阪)、リマテック・アンド・KSNタイランド社(タイ)、グリーン・バイオマス社(マレーシア)と協同でEFBの発電燃料化に成功しており、本事業ではEFBとPKSの混焼により、安定的

な操業を確保します。本発電所が年間48万MWh(一般家庭約11万世帯分の電力消費量に相当)発電することにより、年間28万5000トンのCO<sub>2</sub>排出削減に貢献することができます。

本事業を通して環境に優しい再生可能エネルギーの普及を促進するとともに、新会社の従業員や燃料輸送関連などで地元雇用を創出し、東北復興と地域経済の活性化にも寄与していきます。

#### 事業会社と設備の概要

会社名	大船渡発電株式会社
総事業費	235億円
出資構成	太平洋セメント65%、イーレックス35%
発電設備	循環流動層ボイラ、再熱式蒸気タービン採用
発電出力	75MW



## 2020年東京五輪需要に向け東京サービスステーションの供給体制を強化

東京サービスステーション(以下、東京SS)は、2020年東京五輪開催を控え想定されるセメント需要増に対応するため、2016年3月にセメント系固化材(※)設備を新設し、2017年3月には20,000トンセメントサイロを増設しました。

東京SSは、国内最大級のセメント貯蔵能力を有し、国内最大の需要地である首都圏にセメントを安定供給してきましたが、今回の増設により東京五輪会場整備等の関連工事に向け、万全の供給体

制を整えました。また、新設のセメント系固化材設備からは新国立競技場建設工事向けの出荷が開始されております。

今後も計画されている大型工事に対して安定供給に務めて参ります。

※セメント系固化材…軟弱な土、発生土などを固化し良質な土に改良するための材料



パーム空果房(EFB)：パームヤシの房から実を取り出した後に残る空果房



パーム椰子殻(PKS)：マレーシアやインドネシアなど東南アジアで栽培されるパームヤシの実からの搾油時に発生する殻